



悪い風



川崎ゆきお

「今日は暑いのか寒いのか、よく分かりませんなあ」

「こういうとき風邪を引きます、風を引き寄せるから、風邪を引くというのです。風邪引きです」

「うんと寒い日よりもですか」

「そんな日も引きますが」

「じゃ、あまり関係がないのでは」

「身構えですよ。身構え」

「とは？」

「今日のように暖かいのか寒いのか、判断しかねる日に、暖かい方を取ると、風邪を引く」

「ああ、それが身構え」

「そうそう。寒さに対して油断ができます。当然着ているものも薄くなる。これは物理的にね。精神的には暖かいと判断した場合、そのペースに乗ってしまう。もしかして寒いのではないかと一瞬思っても、いやいやそうじゃない、今日は暖かいんだと、ここで強情を張る」

「頭だけでは対応できないってことですか」

「気の持ち方とは裏腹に物理的なものがやってくる。当然、体を冷やす。体温が少し低くなるやもしれません。まあ、風邪のメカニズムはよく分かりませんが、抵抗力が落ちる。これは気合いで乗り切れないことがある」

「はあ」

「だから、夏風邪も引く。これは暑いので、腹を出して寝て、寝冷えするとかね。当然、冷房の効きすぎた場所に長居しすぎ、鼻水が出てきたなんて、ざらでしょ」

「すると」

「答えは、暖かいのか寒いのか、よくわからん日は、寒い方を取る。これで体を冷やすことはないので、風邪も引きにくい」

「しかし、寒いはずなのに暖かい日に、厚着をすると、蒸れて気分が悪くなることもありますよ」

「この時期暖かいのは暖かい空気が流れ込んできているからでしょ、それで雨が降る。だから、湿気る。この湿気でなま暖かくなる。そのため、厚着をすると蒸れる」

「ふかし芋のようになりますよ。特に化学繊維を着ていると、ビニール袋を被っているようで」

「はいは、それは、まあありますがね」

「それで、汗をかく。その汗が冷えてきたとき、寒い寒い。だから、厚着も問題なんじゃないですか」

「まあ、そうだけど」

「しばらくすると、喉の調子が悪い」

「うーむ」

「だから、好きなのを着てもいいんじゃないですか」

「あなた、それ、本当の風邪ですか」

「え」

「私は鼻のアレルギーがあって、それが風邪の諸症状と似ています」

「僕は喉に出ます。息苦しくなったりします。朝なんて、唾を飲み込むとき痛い。来たなーと思いますよ」

「風邪って、いろいろあるんでしょうねえ」

「風邪薬の風邪とは別にですか」

「風の邪と書きますからなあ」

「邪悪な風ですか」

「悪い風が吹くわけでしょうなあ」

「それは幼稚な」

「今日のように、暖かいのか寒いのか分からないような日の風は怪しい。これは注意が必要でしょう」

「どんな」

「だから、身構えることで、少しは防げる」

喉が弱い方は、しゃべりすぎて、喉がかれたした。

鼻の悪い方は、興奮して鼻水を垂らした。

風邪とは関係がないのかもしれない。

了